



新しい年が明けました。始まりの静けさの中、覚悟が形になり自分の学びと向き合う。積み重ねた時間は、裏切らない。静かな1月がこれまでの努力を支えてくれる。焦らず、逃げず、今日の一問を大切に。

◆ 受験直前・塾長からの一言

試験当日、思い出してほしいこと」試験の日、特別なことをしようとしなくていい。新しい解き方も奇跡のひらめきも必要ない。これまで何度も解いてきた問題。何度も間違え、何度も直したノート。眠たい目で机に向かった、あの時間。それらはすべて、当日のあなたを支える「土台」だ。緊張してもいい。不安でもいい。それでも、問題用紙の前に座ったとき、あなたはもう一人ではない。積み重ねてきた時間が、必ずそばにある。深呼吸を一つ。いつも通りに、丁寧に。



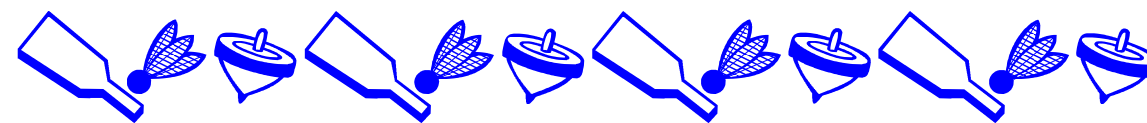
始まりの静けさ～覚悟が形になるとき～

新しい年が始まった。一月の空気には、年末の慌ただしさとは違う澄んだ緊張感がある。賑やかな正月の裏側で、静かに自分と向き合う時間が増える季節だ。受験生にとってこの月は特別だ。これまで積み重ねてきた日々

今月の予定

- 5日…新年通常授業開始
- 8日迄…冬期講習会
- 31日（土）今年度最終版
全国テスト全学年、各教室

※お友達紹介キャンペーン
紹介した人も、された人も
特典がいっぱい!!是非、お
友達を紹介してください!!



が、いよいよ形になる。だが同時に、不安や迷いが最も大きくなる時期でもある。「これで足りているのだろうか」「本番で力を出せるのだろうか」そんな問いが、何度も頭をよぎるのは自然なことだ。はっきり言えることがある。ここまで来た人は、もう十分にやってきている。足りないから不安になるのではない。本気で取り組んできたからこそ、簡単に楽観できないのだ。

その不安は、逃げてきた人には生まれない。

この時期に大切なのは、「新しいことを増やす」ことではない。むしろ、これまでやってきたことを信じ、磨き上げることだ。一問一答を丁寧に直す。間違えた問題の理由を、もう一度言葉にしてみる。基本に立ち返り、土台を固める。派手さはないが、これが一番強い。

試験当日、支えになるのは才能でも運でもない。

「やるべきことを、やってきた」という実感だ。

それは誰かが与えてくれるものではなく、毎日の地味な積み重ねの中でしか生まれない。

緊張してもいい。うまくいかない日があってもいい。大切なのは、投げ出さずに机に向かい続けることだ。その姿勢そのものが、すでに成長であり、誇るべき歩みなのだ。

受験生以外の方にとっても、一月は「学びの姿勢」を整える月だ。結果を急がず、習慣を育てる。短い時間でも集中する。

続けることを、自分との約束にする。

その積み重ねは、来年、再来年、必ず自分を助ける力になる。

新しい一年は、まだ何も決まっていな。だが、今の一日一日が、その輪郭を静かに形づくっている。

焦らず、逃げず、誠実に。やるべきことを、今日も一つ。

一月の静けさの中で、覚悟は少しずつ、自信へと変わっていく。